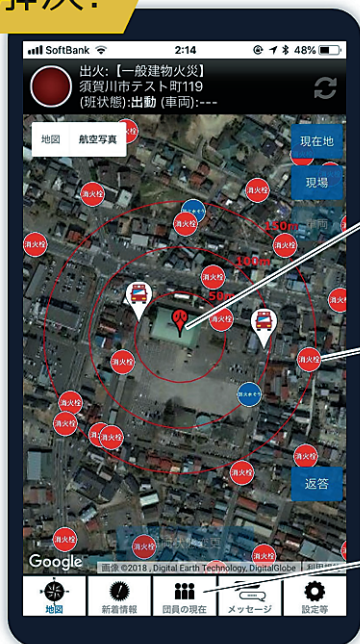


## 解決!



### 一斉に通知!

消防本部等からの情報を  
全団員へ通知。  
火災発生現場が可視化。



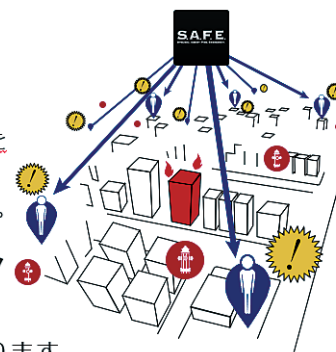
### 水利の可視化!

どこから水を得るのか  
一目で判断しやすくなります。  
平時には点検記録をつけることもできます。



### 団員・車両が把握できる!

ボタンを選ぶだけで返答が簡単に!  
他の団員の運転の可否や到着予定時間、  
車両の現在位置が把握できます。



## 第127回 かわさき起業家オーディション 「かわさき起業家優秀賞」受賞

# 消防団専用防災アシストアプリ 「S.A.F.E. (セーフ)」



情報整備局

代表  
和田晃司

消防団とは、その地域の住民や働いている人たちで構成される地元の消防機関です。団員は会社員や自営業、学生、主婦などの一般の人たちで形成されています。専門の消防職員とは違って、仕事や学業を持っており、地元で火災が起きたときのみ出動します。今、国内には約2200の消防団があり、80万人ほどの団員が在籍。火災だけでなく、地震や水害などの災害時にも活躍する、地域防災に欠かせない存在です。

私たち情報整備局は、そんな消防団の活動をサポートする専用アプリ「S.A.F.E. (セーフ)」の開発・運用を行っています。この事業をはじめたきっかけは、地元である福島県須賀川市の消防団員として活動する中で感じた課題を、解決できる仕組みがつかれないか?という想いからでした。学生時代にIT系の企業でアルバイトをしていたこと、前職でシステム管理者を担当していた経験も、事業立ち上げの後押しになりました。

また私は地元で80年続く稲作農家の三代目であり、父と共に米作りをしています。そのため、今後はS.A.F.E.の全国展開を進めつつ、地元農業に携わる立場として稲作農家支援アプリの開発にも着手したいと思っています。この先も地域の防災や農業に貢献できるような新しい挑戦を続けていきます。

## ■受賞したビジネスに至った経緯

地元の消防団員として11年間活動していましたが、あるとき、夜間の火災で連絡が上手くいかず、消火活動に出動できなかったことがありました。それがとても悔しく、苦い経験として、私の中でずっと残り続けていたのです。

消防活動は「いかに早く鎮火するか」が被害拡大を防ぐカギとなります。それなのに、消防団員への連絡方法は複雑です。火災が発生すると、まずは消防署から消防団の幹部に連絡がいきます。そして、幹部からそれぞれの団員に、電話やSNSで連絡していくというアナログなスタイルでした。これでは時間がかかりすぎると、「火災のときは団員全体にメール配信を欲しい」と市へ要望を出したこともあります。でも、それは難しいという返答があり、その時に「もう自分で何か仕組みをつくるしかない」と、覚悟を決めました。

そこから、一緒にやってくれる仲間を探しました。自分自身でも学生時代にプログラムの経験が少しだけありましたが、本格的に事業を立ち上げるにはエンジニアの協力が必要という状況だったところ、同じ消防団にいた経験豊富な先輩と「一緒にやろう」ということになりました。2015年に創業し、2018年にS.A.F.E.をリリース。開発には3年の歳月がかかりました。

## ■サービスの特徴

S.A.F.E.の一番の強みは、消防団全員へ一斉に火災の連絡がいくことです。火災発生現場をメールで知らせるシステムは他にもありますが、アプリを通して一斉通知できるサービスは、S.A.F.E.だけです。従来のように、幹部が電話やメールで一人ひとりに連絡を取る必要がなくなるので、迅速な出動が可能になります。また、スマートフォンの画面で、火災現場近くの水利（消火栓や防火水槽など、水の供給設備）の位置を把握できることもポイントです。消火活動の際は、どこから水を得られるかをいち早く知ることが重要だからです。

もう一つの大きな強みは、各消防団員がいる場所がひと目で分かること。団員たちは普段は別の仕事をしているので、あちこちから現場に駆け付けることとなります。そのため現場への到着時間はバラバラになりますが、S.A.F.E.があれば「今自分がどこにいて、何分後に行けるか」をボタン操作で瞬時に知らせることができま

す。いま自分がどこにいるかはGoogleMapなどでも確認できますが、S.A.F.E.の様に情報を他者に知らせることはできません。

最初にS.A.F.E.を導入していただいた自治体は、私の地元である須賀川市でした。実績も何もないところからのスタートだったので、はじめはもちろん、「本当にできるの？」という不安の声もありました。しかし、そこから何回も足を運び、開発の段階から根気強く説明を続けて採用していただいた経緯があります。今では「一度導入したら、もうやめることはできないね」という感想もいただけるようになり、防災の要として欠かせない存在になっていることを嬉しく思います。

## ■現状の課題

現在、S.A.F.E.は福島県の須賀川市、古殿町、富岡町、磐梯町、西郷村、郡山市、南会津町、会津美里町、小野町、中島村という10地域の自治体に導入いただき運用中です。また、徐々に全国の自治体からのお問い合わせも増えてきました。しかし一方で、事業拡大のスピードにマンパワーが追いついていないという課題がありま

す。現状、私を含めて2名体制の組織なので、S.A.F.E.を使っていただいている自治体に手厚いフォローをすることが難しい状態です。そのため、今は販路拡大と顧客対応をお任せできる代理店を増やしているところです。また、今後の展開を見据えて、新たなエンジニアも増やしていかなければなりません。そのためには、これまで以上に経営基盤を安定させていく必要もあります。

S.A.F.E.をご紹介しますと、自治体の担当者の8割は「ぜひ採用したい」と興味を持ってくださいますが、実際に商談まで進むケースは、まだ1~2割程度。今後はさらに実績を積み、人材を増やし、社内体制の強化を進めていきたい考えです。

## ■今後の展開

全国に1700ある市町村のすべてに一つ以上の消防団があります。そのうちの3割に当たる500の自治体に、S.A.F.E.を導入していただくことが直近の目標です。現在、人材の増員や組織の拡大に向けて、法人登記の準備を進めています。

一方、私は稲作農家でもありますので、米作りという大切な仕事もあります。私一人ですべての営業活動を担うことはできないので、各地に信頼できる代理店を見つけることで、S.A.F.E.を全国に拡販していきたいと考えています。

九州地方ではスクエル合同会社、東北地方では株式会社MAKOTO WILL、その他の全国を担当いただくバズ・ビュー株式会社や、パートナーというポジションで参画してくれました。これからは、稲作農業との兼務でS.A.F.E.を広めていける体制を整えていくことが重要だと思っています。

また、S.A.F.E.の利便性をさらに高めるためのシステムの改善にも取り組んでいます。近日中に、災害現場の登録と出動報告の機能を追加する予定です。災害が起きている場所にアプリ上でピンを立て、画像とテキストを添付して通知できれば、住民への告知や災害対策本部の動きが格段に上がります。S.A.F.E.をレベルアップさせ、ますます重要性が高まっていく消防団の活動をさらにサポートしていくことも、私たちに課せられた役割だと考えています。

## ■エントリーを検討中の方へ一言

S.A.F.E.は、実績ゼロ、信用ゼロのところからのスタートでした。だからこそ、サービスの信頼性と知名度の向上につなげたいという想いで、今回挑戦した背景があります。おかげさまで、受賞後はメディアにも取り上げられ、神奈川県や静岡県自治体からも「新聞を見ました」とお問い合わせをいただきました。受賞できたことで、今後営業活動を任せる代理店の担当者も、自信を持ってS.A.F.E.をすすめてくれると思います。

また、かわさき起業家オーディションは受賞後のフォローがとても手厚いと感じています。受賞して終わりではなく、ビジネスの機会が広がるような様々な支援をいただいています。自身のビジネスを広める良いチャンスになると思いますので、応募してみることをおすすめします。

事業者名：情報整備局

住所：〒962-0122

福島県須賀川市木之崎字向原27-39

メールアドレス：info@sukapo.jp

ホームページ：http://gcd.main.jp/safelp/